

所信表明書

2025 年 9 月 18 日

理事長候補者氏名（自署）

中島 秀之



（「次期理事長兼学長に求められる資質・能力等について」を踏まえて記入願います。）

（本文（除脚注） 4 1 3 9 字／5, 0 0 0 字程度）

（全体方針）

これからの札幌市立大学のあり方として第一に考えたいのは大学のグローバル化です。名は体を表すと言いますが、「札幌市立大学 (Sapporo City University)」という名前は札幌市が設立した、札幌にある大学という意味です。札幌ローカルな大学を意味しますし、他の人々もそうイメージするでしょう。本学は市民認知度が低いというレポートもありますが、名前が一因ではないかと推察しています。「いちりつ大学」という呼び名からは「一流大学」であるというニュアンスは感じられません（もちろん、例外はあります）。

札幌ローカルな大学ではなくて、いきなり世界は無理でも、せめて日本の大学として認知されるようになりたいと思います。来年度の創立 20 周年を機に「札幌公立大学 (Sapporo Commonwealth University)ⁱ」に改名したいと考えていますⁱⁱ。タクシーに「さっぽろしりつだいがく」を指示したら「札幌大学」に行ってしまったというような間違い（「札幌私立大学」と思われた？）も防げると思います。以後、本文書では本学を SCU と呼ぶことにします。

大学の知名度を上げる理由は、より良い学生や教員の獲得です。入試倍率の向上や、教員募集に対する応募の増加を目指します。

数年前から SCU の教育目標として「DNA 連携ⁱⁱⁱで未来のダ・ヴィンチやナイチンゲールを育てる」を掲げています。ダ・ヴィンチもナイチンゲールもマルチタレントであることが特徴の一つです。多分野に秀でていることが大事なのではなく、必要な分野に手を出せる^{iv}というのが大事です。ナイチンゲールの本分は看護師ですが、彼女の主張^vを裏付けるために統計を駆使することができました^{vi}。ダ・ヴィンチも画家として有名ですが、それ以外に解剖学や工学に

も強い人で、ヘリコプターの設計図を残したりしています。デザインは様々な分野に精通していなければならないので、こういった才能が要求されます。

SCU の場合は看護学部とデザイン学部の連携が中心となりますが、これを技術的に支える AI と IT の利活用が肝です。看護学部の教員や学生が AI と IT を駆使して新しい看護のあり方をデザインする。デザイン学部の教員や学生が看護の課題を探り出し、AI と IT を駆使して解決を図るというような教育をしたいと考えています。

(AI と IT の活用)

AI と IT が世の中を急速に変えようとしています。コンピュータが世に出てから現在までの 50 年あまりの変化は激しいものでした。特にインターネットが社会のあり方を変えてきました。技術革新は加速しているので、これまでの 50 年の変化と同等の変化が次の 5 年という 1/10 の時間で来ると考えています^{vii}。

このような激変の時代にあって、大学教育も変わらなければなりません。そう考えたときに SCU の使命は単純明快です。知の拠点として、地域の未来を描き、そのための人材を育成するのが SCU の使命です。変化に追従するのではなく、変化を先取りするのです。世界に先駆けて高齢化社会を迎える日本

(「課題先進国」と呼ぶ人もいます^{viii}) において看護は重要な課題です。次世代の看護の姿をデザインし、そしてそれを実現していくためには IT が必要です。看護とデザインを誇る大学に、私は AI と IT を持ち込みたいと考えています。それは今後の公立大学のあるべき姿を先導するはずです。

SCU に設置した AIT センターは AI や IT の技術そのものを研究するばかりではなく、それらを看護やデザイン、また地域の問題解決に応用することも業務とします。

(リベラルアーツ)

ナイチンゲールの著作に以下の記述があります：

「どんな訓練もその目的は、自分自身を訓練する方法、自分でものごとを観察する方法、自分でものごとを考え抜く方法を私たちに教えることです。」

フローレンス・ナイチンゲール (ハーパー保子訳) 『ナイチンゲール 心に効く言葉』(“Florence Nightingale To Her Nurses”, “Suggestions for Thought”, “Notes on Nursing”からの抜粋)

リベラルアーツという用語は使われていませんが、これぞ正にリベラルアーツの真髄だと思います。ただ知識を詰め込んだり、訓練をこなしたりするだけではなく、それらの意味を考え、使いこなす力です。

SCU のスローガン「ナイチンゲールを育てる」はリベラルアーツ教育を含意します。

先に「看護とデザインを誇る大学に、AI と IT を持ち込みたい」と書きましたが、これらはリベラルアーツの教育の基盤となると考えています。同時に AI や IT を使いこなす力というのがリベラルアーツそのものでもあります。

（地域貢献）

国立大学や私立大学との関係において、公立大学のあり方に関しては近年議論がさかんになり、文部科学省や公立大学協会でも議論されているところです。公立大学の設置目的は細かな違いはあっても「地域への貢献」にあると考えます。ただ、地域への貢献の仕方には様々なものがあって、知の拠点以外にも地域活性化、地域の課題解決、地域の人材育成、設置自治体の知名度アップなど、様々なものが考えられます。これらのうち、知の拠点、地域活性化、地域の課題解決、人材育成の手法は地域固有のものとは限らず、普遍性を持っていることが多いのです。たとえば、札幌市を活性化する手法として交通システムの改善を行えば、それは、若干の手直しは必要でしょうが、仕組み自体は他の地域にも通用するはずです。

公立大学として、学内の研究課題だけに終わることなく、広く街の課題を拾い上げ、研究と教育を通じて解決していくことも大切です。街に貢献できるだけではなく、逆に街からテーマを拾い上げることによって幅広い研究教育が可能になるという、大学側のメリットも大きいと思います。

「かんどぶらす」という SCU 発（初でもあります）ベンチャーができていますが、これは SCU が「地(知)の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に採択された

「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成『学び舎』事業」[※]における南区での活動などの経験を下に看護学部元教員が立ち上げたもので、街中に看護師のいるスポットを作ったり、お年寄りを対象としたデマンド交通に看護師が同乗することを目指したりするものですが、ここでも AI と IT が活かされています。デマンド交通部分は公立はこだて未来大学発のベンチャー「未来シェア」[※]が提供している SAVS(Smart Access Vehicle Service)が担当します。SAVS は

AI で制御する乗合交通を提供するサービスです。(株) 未来シェアでは SAVS のような新しい公共交通が街のインフラとなることを目指しています、

私は札幌市の「新たな公共交通システム研究会委員」の委員長も務めています。この委員会でも SAVS のような乗合交通を導入することを検討しています。鉄道や都市間バスなどの(札幌市の場合は東西に延びる)長距離交通の停留所と住民の居住地などを(南北に)つなぐ役割をもたせ、移動の効率化を目指しています。

SCU では 2022-2025 年度に、私が代表となって科研費基盤研究 (A)「AI 技術 × ポジティブヘルス増進による高齢者の社会的つながり創発モデルの実証的研究」を実施しています。これは高齢化の進んでいるもみじ台団地の住民を対象に、SAVS で外出の足を確保し、ウェルネス向上を図る実験です。もみじ台団地では公共の足が少なく、自家用車のない人は買い物に行くのも不便で、引きこもりがちになっていました。これらの人々を SAVS で連れ出したところ好評でした。2024 年初頭の冬に「しあわせタクシー」の実証実験を 6 回実施し、のべ 174 回の乗車がありました。行先はスーパー、ホームセンター、病院、森のゆ、回転寿司などで、アンケートの結果約 85% の人が満足し、外出意欲が高まったと回答しています。高齢化の進んだ団地は日本中にありますから、それらの地域でも使えるモデルになっていると思います。

地域の人材育成において、卒業生がその地域に就職すること(自治体が要請することが多いのですが)を前提とする必要はないと思います。世界中のどこに行っても活躍できる人材を育てることの方が肝要です。その地域の出身者が世界中に散らばっていることこそ「グローバル」です。そしてその人達のネットワークは地域の活性化にも役立つはずです。

(予算の獲得)

公立大学は、予算の仕組み等で複雑なところがあります。文科省予算が直接大学に来ることはなく、総務省(かつての自治省)から自治体への地方交付税という形で交付されますが、それがそのまま自治体から大学に来るわけでもありません。自治体独自の加算があります。授業料は大学の直接収入となります。それらを含め、設置団体=札幌市役所との連携を強化して SCU のあり方を明確にし、改善に努めていきたいと考えます。

大学が独立法人化してから、教員ポスト数の制約がなくなりました。以前は教授何名、助教授何名というように決められていたのですが、現在は人件費の総額以内なら自由に配分できます。教授、准教授、助教の人数を戦略的に決めていく必要があります。しかしながら、現状ではこの人件費が全体として不足気味で、教授があと数名欲しいのに予算がないという状態です。大学は成長すべきですから、当初の予算に留まる必要はないと思います。人件費もその一つで、拡大が自然でしょう。もちろん、これも市役所との交渉になると思いますが、そのためには、この文書に書いたような SCU の運営方針を説明して、理解していただく必要があります。

私の着任直後に AI ラボの予算をつけていただき、除排雪の効率化の研究などをしました。ここでも SAVS のシミュレータを使って経路効率化を図ったところ約 10%の節減が可能だとわかりました。札幌市の除排雪予算は年間約 200 億円ですから、計算上では 20 億円の節約になります（SCU 全体の運営費交付金に相当する額です）。AI ラボの予算（人件費と研究費）は外付けでしたが、2022 年度に運営費交付金に転換されて、AIT センターという学内組織となりました。AIT センター新設の件は、非常に稀な事態だと思いますが、もう 1 件くらい、このような組織拡張ができればと夢想しています。たとえば情報技術学部を作ること考えられます。

（まとめ）

- 大学のグローバル化を図る、その一環として設立 20 周年の 2026 年度に改名を試みる。これにより大学の知名度を高め、より良い学生や教員の獲得を図る。
- AI と IT の活用を図る。
- リベラルアーツ教育を奨励する。
- 地域貢献（特に交通の効率化）を活発化する。
- 大学が成長するために予算（特に人件費）増加を図る。

ⁱ 本学で使っている copilot に聞いてみたら、Sapporo City University より Sapporo Commonwealth University の方がグローバル感があって良いという返事でした。

ⁱⁱ 現在のインターネットドメインは scu.ac.jp ですから、これを変えたくはないので spu になってしまう Public ではなく Commonwealth を使いますⁱⁱ。

iii DNA 連携とはデザイン(Design), 看護(Nursing), AIT の連携のことで, 私の造語です (AIT=AI+IT も私の造語です).

iv 最近では「越境」とも呼ばれています. 「ナイチンゲールの越境」シリーズ全 9 巻も発行されています.

v クリミア戦争時, 病院で多くの負傷兵が亡くなったのですが, 彼女はその原因は傷ではなく病院内での感染症だと気づき, これを統計を使って示しました. 彼女の使ったのは「鶏のとさか」と呼ばれる円グラフです.

vi 多尾 清子: 統計学者としてのナイチンゲール. 医学書院 1991

vii 中島秀之, 津田一郎: AI システムの進化速度は指数関数を超えている. 人工知能学会論文誌 Vol.40, No.3 2025

viii 小宮山宏: 「課題先進国」日本: キャッチアップからフロントランナーへ. 中央公論新社 2007

ix この COC 事業は私の本学着任以前のものです.

x 未来シェアは私が中心となって立ち上げたベンチャーで, 私は取締役会長を務めています. 国公立大学の学長は他の組織の代表 (代表取締役社長) 長にはなれないので, こういうポジションになっています.